

2020年11月号

11月15日(日)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 290

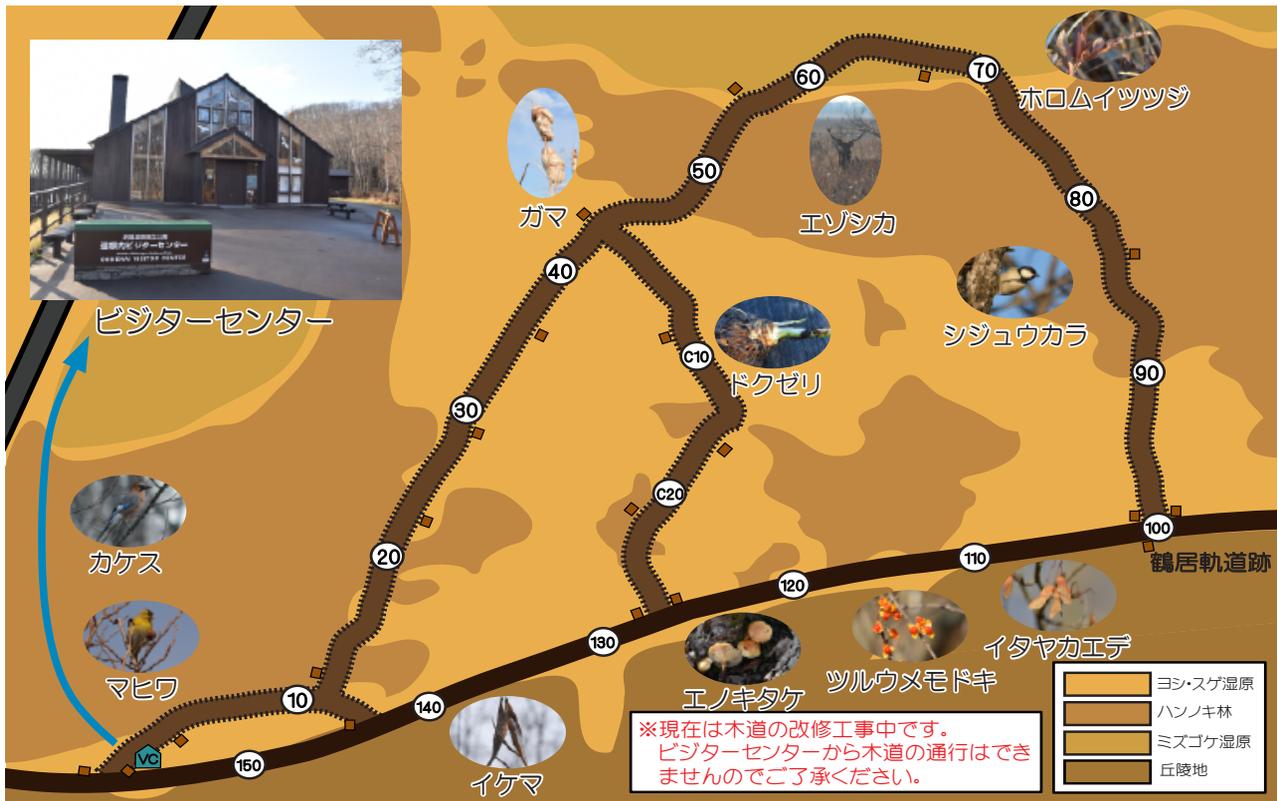


今年はこれでしばらく…

木道の改修工事が始まり、残念ながらビジターセンターから木道を散策できるのは、来年度までおあずけとなります。

これで見納めと、工事直前日に木道を歩くと、風もなく、穏やかな朝の空が迎えてくれました。早くも木々は冬芽をつけ、春を待ちわびているようです。エゾシカの鳴声が響く晩秋の湿原を心ゆくまで堪能しました。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内ビジターセンター周辺の自然～



【ガマ】
ガマ科 蒲
ヨシの広がる湿原に群落を作っています。秋が深まり、綿毛を出し始めた果穂が目立ってきています。冬にもこの姿が残っています。



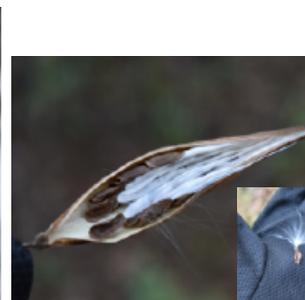
【ドクゼリ (根茎)】
セリ科 毒芹
葉を掬い上げると、球根状の根茎と呼ばれるものが出てきます。この根茎を水面に浮かせた状態で冬を越します。毒に注意。



【イタヤカエデ (実)】
ムクロジ科 板屋楓
黄色く色づいていた葉が枯れ落ちた後に、独特のプロペラ状の種子が残っています。落下する際、回転して滞空時間を稼ぎます。



【エノキタケ】
キシメジ科 榎茸
秋の最終版に倒木などに映えてきます。かさがかまじゅう型に開き、人工栽培されているものとは見た目がかんたんに違います。



【イケマ (実)】 キョウチクトウ科
夏に白い花を咲かせていたつる性の植物です。オクラのような形の実が茶色く変色して割れ、中には綿毛をつけた種子が整然と詰まっていた。風に乗って散布する風散布型の種子です。和名は、アイヌ語のイ・ケマ (その・足) から由来します。アイヌの人々はこの根を魔除けに使っていました。

○表紙の写真 上：朝日を浴びるヨシの穂 中右：エゾノコリンゴの実 中左：エゾシカ 下：ケヤマハンノキの花芽

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

現在、木道の通行はできませんが、ビジターセンターの周囲では野鳥の姿が見られます。確認される野鳥の種数は少ないものの、秋の渡りの時期を迎え、上空をオオハクチョウが通り過ぎることもあるほか、ビジターセンターの周りでは毎日のようにマヒワの声が聞かれます。



【メジロ】 夏鳥
メジロ科 目白
10月に渡りの途中と思われる群れがいました。年々確認する機会が増えてきているように感じます。英名は Japanese White-eye。



【マヒワ】 漂鳥
アトリ科 真鶺
今季もハンノキの実がよく実り、それを目当てにやって来ています。「チュクチュク」「チューン」という鳴き声が聞こえてきます。



【カケス】 留鳥（漂鳥）
カラス科 懸巢
秋になると湿原周辺にやってきます。この時はヒヨドリの声真似をしていました。北海道のカケスは亜種ミヤマカケスです。



【シジュウカラ】 留鳥
シジュウカラ科 四十雀
こちらを警戒しながらも、姿をよく現してくれます。年中見かける種ですが、冬が近づくとつれ目立つようになります。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（10月15日～11月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

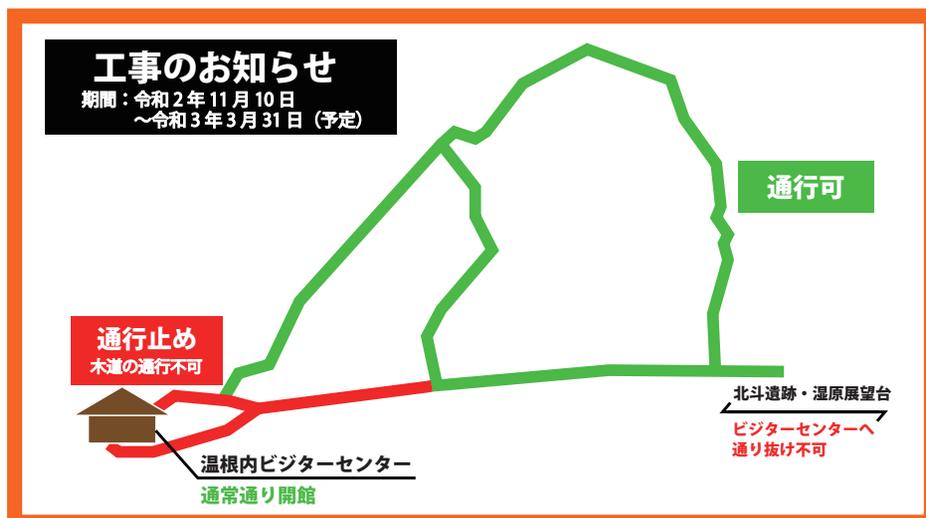
■オオハクチョウ■キジバト■アオサギ■タンチョウ■トビ■ノスリ■コゲラ■コアカゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■クマゲラ■ヤマゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■ウグイス■エナガ■メジロ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■アカハラ■ツグミ■タヒバリ■カワラヒワ■マヒワ■ベニマシコ■ウソ■シメ■アオジ■クロジ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いいたします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いいたします。

☆☆☆☆ 木道改修工事に伴う通行止めのお知らせ ☆☆☆☆

現在、温根内の遊歩道は改修工事を行っております。これに伴って、**ビジターセンターからの遊歩道の利用は一切できません**のでご了承ください。ビジターセンターは通常通り開館しております。また、工事車両が通る場合もありますので、来館の際はご注意ください。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



☆☆☆ トピック どこへ行った？温根内のニホンザリガニ② ☆☆☆

前回は温根内周辺でもニホンザリガニがたくさん生息していた、というお話をしました。では、彼らはどうして姿を消してしまったのでしょうか？可



能性としては、次の2つくらいが考えられそうです。

- ① 何者かがニホンザリガニを取りつくしてしまった
- ② 環境が変わってニホンザリガニが棲めなくなった

まず、①について考えてみましょう。釧路湿原にはキタキツネやタンチョウなどニホンザリガニを捕食する生物は以前からいました。にもかかわらず一昔前までニホンザリガニがたくさん生息していた理由は、その食べる／食べられるのバランスが適度に保たれていたということです。しかし、従来の捕食者以外の何者かによってそのバランスが崩れ、激減してしまったという可能性はありそうです。…では、誰が？

ここで浮かんでくるのが、「外来生物」の存在です。ニホンザリガニの脅威となりうる外来生物は、ウチダザリガニとアメリカミンク（いずれも特定外来生物）が挙げられます。しかし、今でもわずかにニホンザリガニが生息している温根内周辺では、ウチダザリガニは確認され

ていません。そうなるに怪しいのは、アメリカミンクです。アメリカミンクは全道に分布し、環境省HPによると1950年代後半から逸出した個体による野生化が始まったとされています。下の写真はまだニホンザリガニ

が多く確認されていた時のものです。やちまなこに潜ってニホンザリガニを捕らえ、陸に上がって



ニホンザリガニを食べるアメリカミンク

旺盛に食べているアメリカミンクが写っている貴重な写真です。アメリカミンクは今でも頻りに温根内で目撃され、問題視されています。



ニホンザリガニの残骸

この動物がニホンザリガニを食いつくしてしまった…という仮説は非常に説得力があります。

ではもう一つの可能性、②環境が変わって棲めなくなった、という説の方はどうでしょうか？（つづく）

☆☆☆☆イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

新型コロナウイルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎ 0154-65-2323

♪湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月6日（日）10：00～12：00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター

花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺の「かたち」にスポットを当てます。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕12月5日（土）10：00～12：00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～引き続きご注意を～

日に日に寒くなり、空気も乾燥してきています。新型コロナウイルス感染拡大防止に引き続きご協力をお願いいたします。館内は定期的に窓を開け、空気の入れ替えを行っております。

月刊 温根内通信 No. 290

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料